

topics

SS整備に拍車がかかる

01

農機センターでは、今年の少雪で生態が早まる予想から、SS等の機械の整備が本格的に行われていた。

毎年秋の収穫作業が終わってから春の散布の期間までに、約40台を整備しており、生産者からは整備の進行具合の問い合わせも多く、本格的に始まる農作業の準備に間に合わせていた。

「生産者には安全に農作業をしてもらうために迅速かつ確実に作業しています。」と作業員は述べていた。



急ピッチで点検作業が行われる

topics

マメコバチの貯蔵始まる

02

農業振興課では、毎年マメコバチの冷蔵保管が行われているが、今年の入庫ピークは去年よりも10日程早い傾向となっていた。

今後も気温の上昇により生態が早まる予想から、出庫や薬剤散布の時期を聞く生産者の方が多く見られた。

これから生産者が安心して農作業を行えるように、巡回講座やSNSを使って情報発信をしていきたい。



本格化する農作業に備える組合員

topics

共防連書面議決にて全議案承認

03

共防連では、新型コロナウィルス拡大による感染の恐れがある為、第58回通常総会を書面議決書にて行い、全議案が承認された。

毎年総会では立木品評会の表彰も行われているが、その賞状も毎戸配布される事となった。

三上由紀夫会長は「新型コロナウイルスによってこのような形になって残念ではあるが、今年度も様々な事業により一層尽力していきたい。」と意欲を見せていた。



全議案承認されたことが事務局から話される

topics

今年産米の作業スタート

04

「青天の霹靂」の種籾の消毒が4月2日に当JA育苗センターにて行われた。

毎年4月初めに行われており、5キロの種籾袋を約150袋を消毒した。消毒は24時間掛けて行われ、籾に消毒液が浸透するよう丁寧に取り組んでいた。

「この作業は、出来秋を左右する重要な作業の為、丁寧に取組んでいきたい。」と三上課員は意気込んでいた。



籾袋を丁寧に浸透させる作業員ら